

脳死下臓器提供を決めたドナー家族を支え続けた

看護師の思考過程と看護実践

金沢大学附属病院 ○池津恵里奈 要田佳代 中尾弥生 田畑亜希子
森野 啓 水上喜美子 水野一美 乾 早苗

脳死下臓器提供を決めた青年期ドナー家族を支え続けた看護師の思考過程と看護実践を明らかにすることを目的とした。山本則子氏の「ケアの意味を見つめる事例研究」の手法を用いて中心的な看護実践者であった8名で対話を通して実践を言語化し、実践の意図とコツとして整理した。

看護実践は3つの意図【家族各々の患者への向き合い方を支える】【患者の人となりと価値観を尊重し尊厳を守る】【家族みんなの思いが詰まった脳死下臓器提供が完遂されるように整える】と7つのコツから構成された。危機的状況にある家族をなんとか支えたいと関心を寄せたとき、ひとまとめではなく家族員各々を支える実践が生まれた。ケアを提案しながら家族像を探った初期、家族発信の望みを支えた中期、家族の気持ちを汲み取って見守った後期と、各時期を通して実践の意図は一貫するなかでも家族の心情変化に合わせ実践の形を変化させながらドナー家族を支え続けた実践であった。